

精神科デイケア通所者の生活機能とアサーティブの実態

山形大学医学部看護学科 臨床看護学講座 齋藤深雪

I. 目的

全国のデイケア通所者を対象に、生活背景、生活機能およびアサーティブの実態を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

対象者は、全国の病院付設型デイケア(30施設)に登録する通所者1272名(病名は統合失調症)である。調査期間は、平成19年9月から平成20年2月である。質問紙の回収は郵送法で実施した。通所者1272名うち未回答のない715名(56.2%)を分析した。

1) 質問紙

①精神障害者生活機能評価尺度(齋藤, 2007a ; 齋藤ら, 2007b)

この質問紙は、精神障害者の生活機能を把握するものであり、活動面(18項目)と参加面(24項目)から構成される。活動面と参加面を合わせて使用することが望ましい。精神障害者の最近1ヶ月間の実行状況の評価を行うものである。実行状況とは、個人が現在の環境のもとで行っている活動や参加の状況を示すものであり(WHO, 2001)、活動面では実際に行っているかどうかを評価する。「対人関係に関すること(問1-6)」、「日常生活行動に関すること(問7-12)」、「健康の自己管理に関すること(問13-18)」の3領域で、「できない(0点)」、「どちらかと言えばできない(1点)」、「どちらかと言えばできる(2点)」、「できる(3点)」の4段階評価である。

参加面では実際に関心があるかどうかを評価する。「デイケア以外の場に対する関心(問1-6)」、「安らぎのある人に対する関心(問7-12)」、「生きがい・目標に対する関心(問13-18)」、「楽しむことに対する関心(問14-24)」の4領域で、「関心がない(0点)」、「どちらかと言えば関心がない(1点)」、「どちらかと言えば関心がある(2点)」、「関心がある(3点)」の4段階評価である。

②日本語版 Rathus assertiveness schedule(J-RAS)(鈴木ら, 2004 ; 鈴木ら, 2007)

Rathus がアサーティブネス・トレーニングを「適切な感情的表現力を獲得し再構築することを援助すること」と定義した概念に基づいて開発された尺度である。デイケアプログラムの1つである生活技能訓練(Social Skills Training ; SST)の評価尺度として使用されている。回答方式は逆転項目16項目を含む、30項目からなるリッカー方式の評価尺度である。内容は30の状況設定を提示し、状況にある行動が対象者にどの程度あてはまるかで回答を求める。得点は-3から+3で0は含まない。「まさにわたしの特徴そのものであり、きわめて当てはまる」から「まったくわたしの特徴と

は異なり、まったく当てはまらない」の中から1つ選択させ、総合得点で評価する。

③通所者の背景に関すること

年齢、性別、同居者の有無、主に家事洗濯をする人、デイケアまでのバスや電車の利用の有無、通所目的、今のデイケア以外のデイケア通所経験の有無について質問した。

2)倫理的配慮

対象施設の病院長に調査を依頼し、研究の趣旨を文書で説明し、研究に対する理解を得た。その後、通所者に文書で説明し、回答をもって同意を得たとした。研究への参加・協力は通所者およびスタッフの自由意思によって行い、参加の拒否や同意後の中止などによって不利益を受けないこと、データは統計的に処理し、本研究の目的以外には使用しないこと、結果を発表する際は匿名性を保障した。また、厚生労働省の『臨床研究に関する倫理指針』にもとづき、細心の注意を払いことを約束し、保障した。本研究は、山形大学倫理委員会の審査を受け承認を得た。

III. 結果

1) 年齢 (図1)

年齢については、715名中、「10代」2名(0.3%)、「20代」49名(6.9%)、「30代」150名(21.0%)、「40代」164名(22.9%)、「50代」199名(27.8%)、「60代」107名(15.0%)、「70代」22名(3.1%)であり、未回答は22名(3.1%)であった。

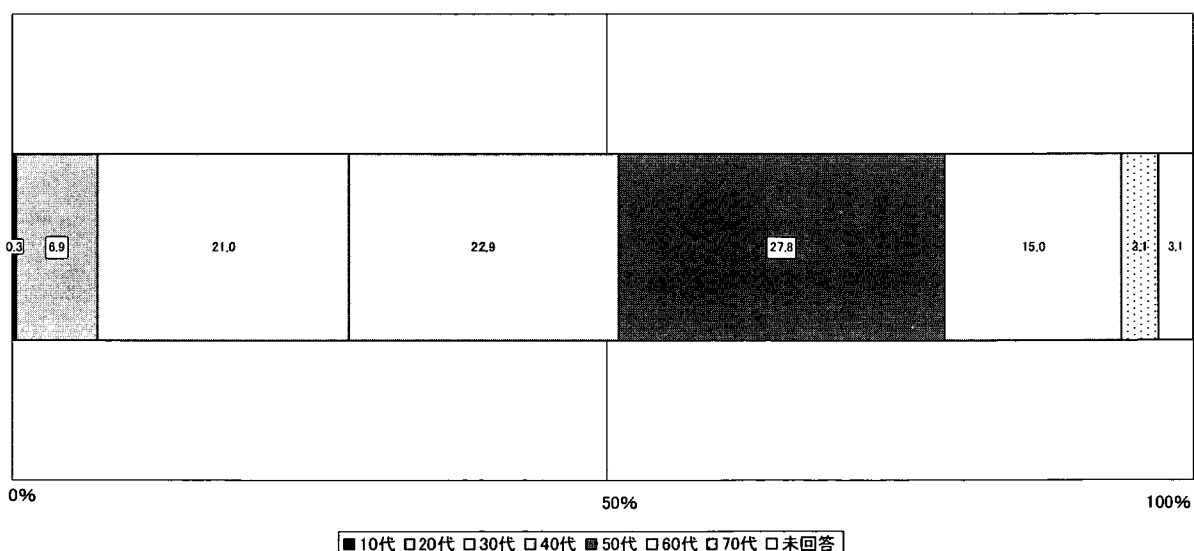


図1 通所者の年齢(N=715)

2) 通所者の性別 (図 2)

通所者の性別は、715 名中、男性 476 名 (66.6%)、女性 233 名 (32.6%) であり、未回答は 6 名 (0.8%) であった。

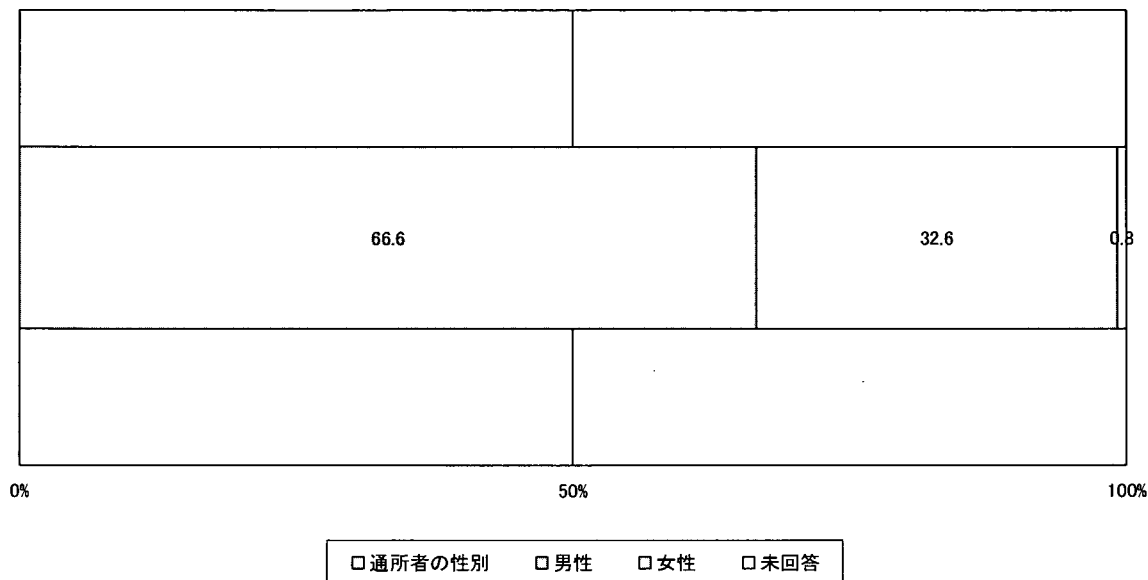


図2 通所者の性別 (N=715)

3) 同居者の有無 (図 3)

同居者の有無では、715 名中、同居者がいる者が 407 名 (56.9%)、同居者がいない者が 298 名 (41.7%) であり、未回答が 10 名 (1.4%) であった。

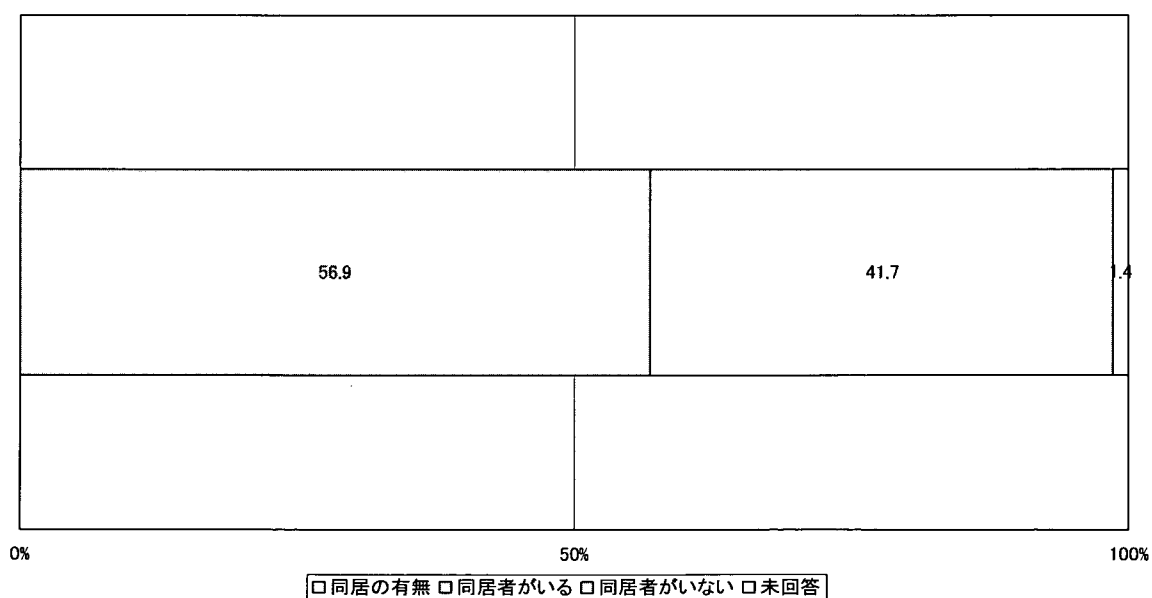


図3 同居者の有無 (N=715)

4) 家事洗濯について (図 4)

主に食事を作る人については、715名中、「自分」288名(40.3%)、「自分以外」416名(58.2%)であり、未回答は11名(1.5%)であった。主に掃除をする人については、「自分」453名(63.4%)、「自分以外」251名(35.1%)であり、未回答は11名(1.5%)であった。主に洗濯をする人については、「自分」482名(67.4%)、「自分以外」224名(31.3%)であり、未回答は9名(1.3%)であった。

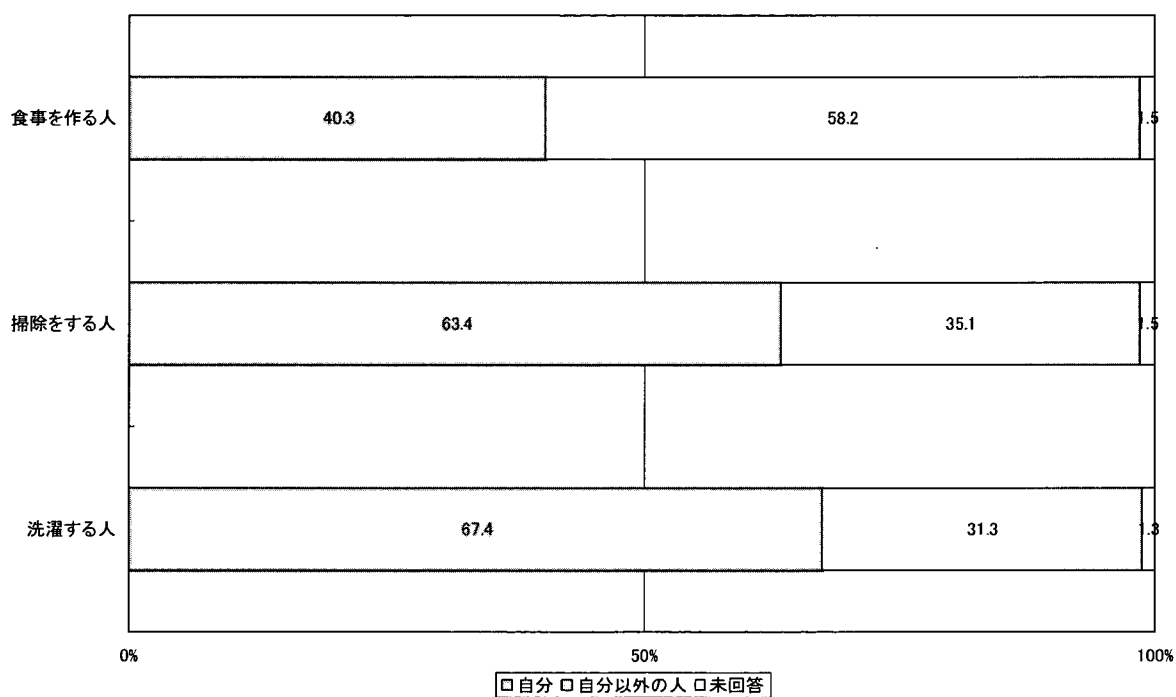


図4 家事洗濯について (N=715)

5) デイケアまでのバスや電車の利用 (図 5)

デイケアまでのバスや電車の利用については、715 名中、「利用する」が 276 名 (38.6%), 「利用しない」が 424 名 (59.3%) であり、未回答が 15 名 (2.1%) であった。

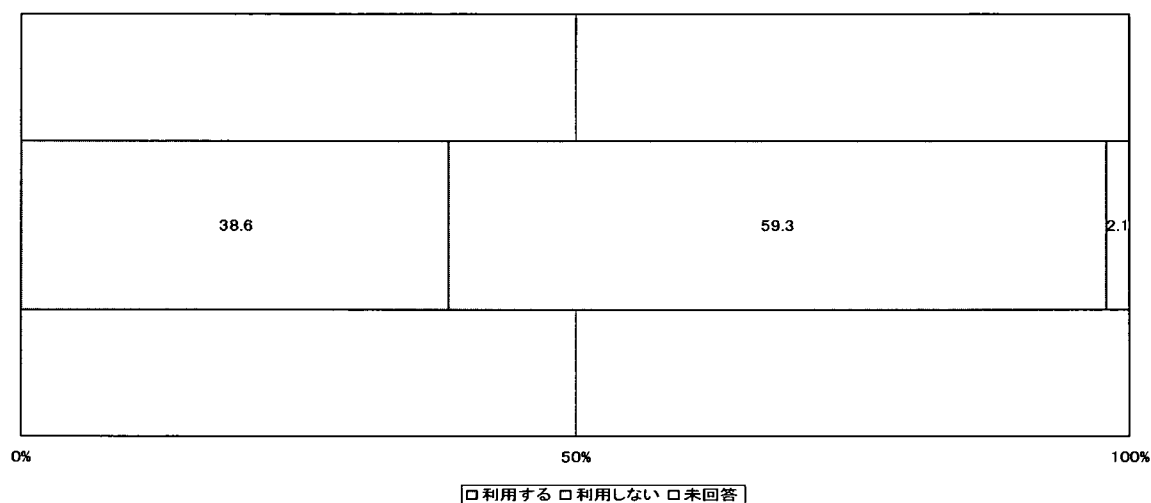


図5 デイケアまでのバスや電車の利用 (N=715)

6) 通所目的 (図 6)

通所目的については、715 名中、「規則正しい生活をするなどの生活をする力をつけるため」という通所目的を持っていた者が 465 名 (65.0%) であった。

「家族や友人などの周囲の人達とうまく付き合うため」という通所目的を持っていた者は 314 名 (43.9%) であった。「症状のコントロールや症状悪化時の対処をできるため」という通所目的を持っていた者は 285 名 (39.9%) であった。「自分なりの生きがいや目標をもつため」という通所目的を持っていた者は 295 名 (41.3%) であった。「友人や相談できる人などの信頼できる人を見つけるため」という通所目的を持っていた者は 238 名 (33.3%) であった。「自分の生活を楽しめるため」という通所目的を持っていた者は 320 名 (44.8%) であった。「自分らしく生活するため」という通所目的を持っていた者は 282 名 (39.4%) であった。「その他」は 82 名 (11.5%) であった。

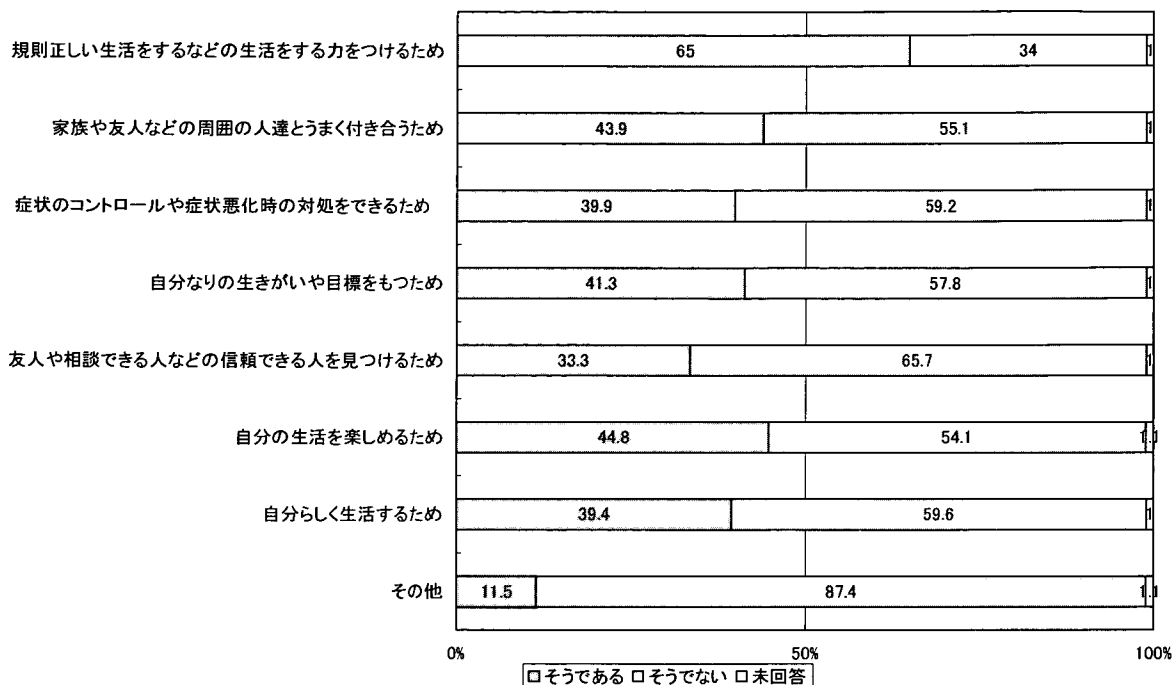


図6 通所目的 (N=715)

7) 今のデイケア以外のデイケア通所経験の有無 (図 7)

今のデイケア以外のデイケア通所経験の有無については、715名中、「経験がある」145名(20.3%)、「経験がない」554名(77.5%)であり、未回答は16名(2.2%)であった。

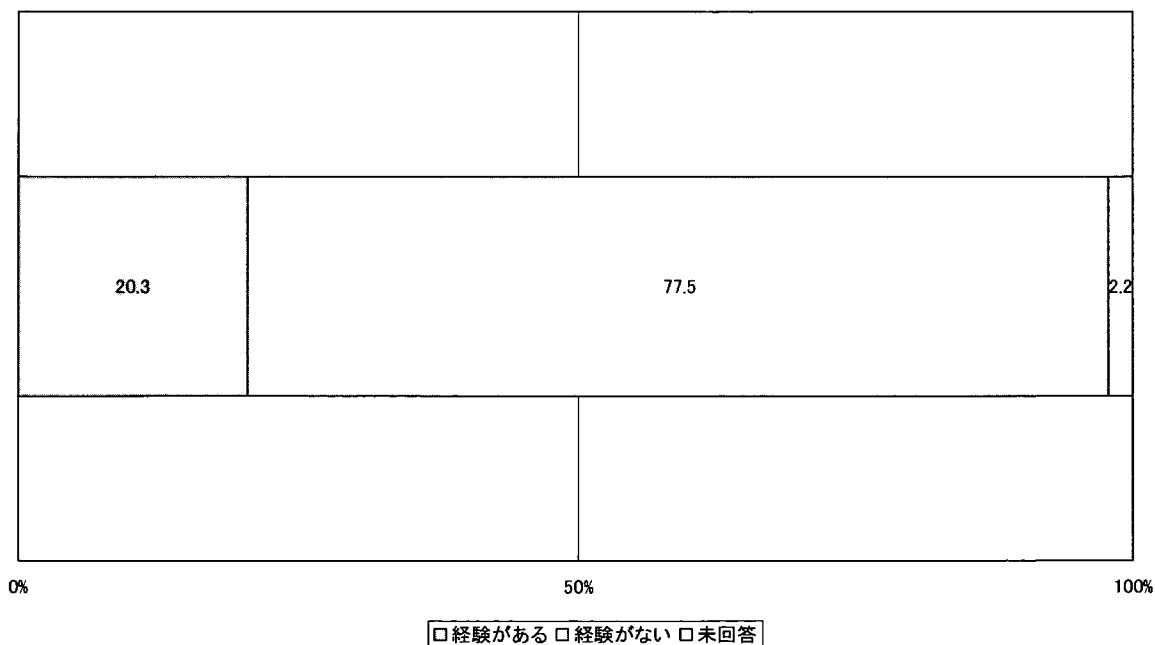


図7 今のデイケア以外のデイケア通所経験の有無 (N=715)

8) 生活機能

(1) 活動面 (図 8)

活動面については、「問 1 新聞記事の理解」では、715 名中、「どちらかと言えばできる」が 278 名 (38.9%) で最も多かった。「問 2 会話の理解」では、「どちらかと言えばできる」が 298 名 (41.7%) で最も多かった。「問 3 電話での連絡」では、「できる」が 317 名 (44.3%) で最も多かった。「問 4 会話の切り上げ」では、「どちらかと言えばできる」が 242 名 (33.8%) で最も多かった。「問 5 必要に応じた会話の選択」では、「どちらかと言えばできる」が 276 名 (38.6%) で最も多かった。「問 6 話し相手の立場を考えて話すこと」では、「どちらかと言えばできる」が 286 名 (40.0%) で最も多かった。「問 7 髪を清潔に保つこと」では、「できる」が 363 名 (50.8%) で最も多かった。「問 8 場所にふさわしい服装の選択」では、「できる」が 278 名 (38.9%) で最も多かった。「問 9 規則正しい食事の摂取」では、「できる」が 284 名 (39.7%) で最も多かった。「問 10 計画的なお金の使用」では、「できる」が 284 名 (39.7%) で最も多かった。「問 11 必要に応じた衣類の洗濯」では、「できる」が 362 名 (50.6%) で最も多かった。「問 12 必要に応じた公共の乗り物の利用」では、「できる」が 348 名 (48.7%) で最も多かった。「問 13 指示された通りの服用」では、「できる」が 427 名 (59.7%) で最も多かった。「問 14 精神科病院への定期的な受診」では、「できる」が 533 名 (74.5%) で最も多かった。「問 15 調子が悪いことを伝えること」では、「できる」が 413 名 (57.8%) で最も多かった。「問 16 過去の体験や出来事を参考にすること」では、「できる」が 311 名 (43.5%) で最も多かった。「問 17 天気や気温に応じた衣服の調節」では、「できる」が 388 名 (54.3%) で最も多かった。「問 18 バランスのよい食事の摂取」では、「できる」が 263 名 (36.8%) で最も多かった。

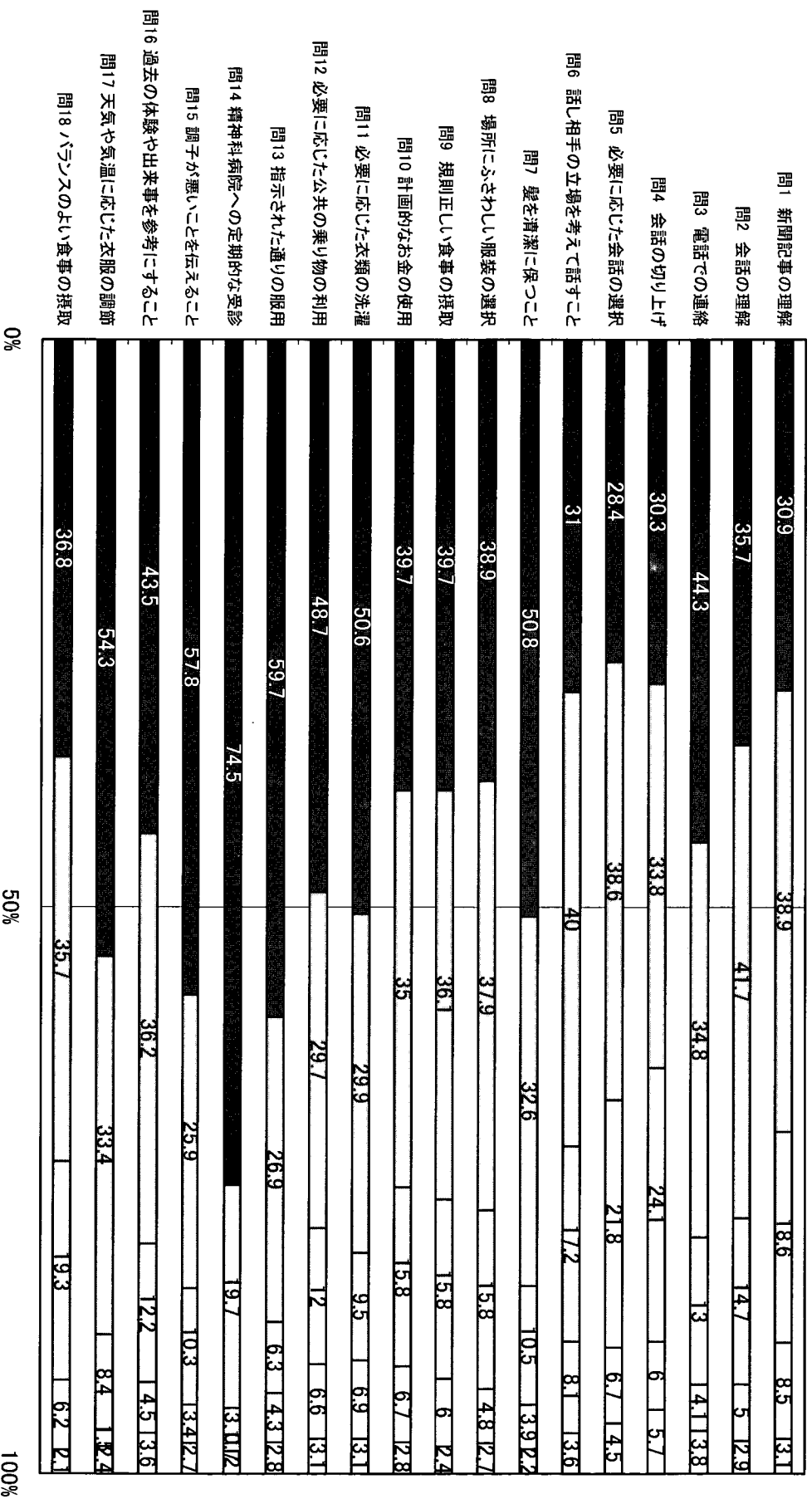
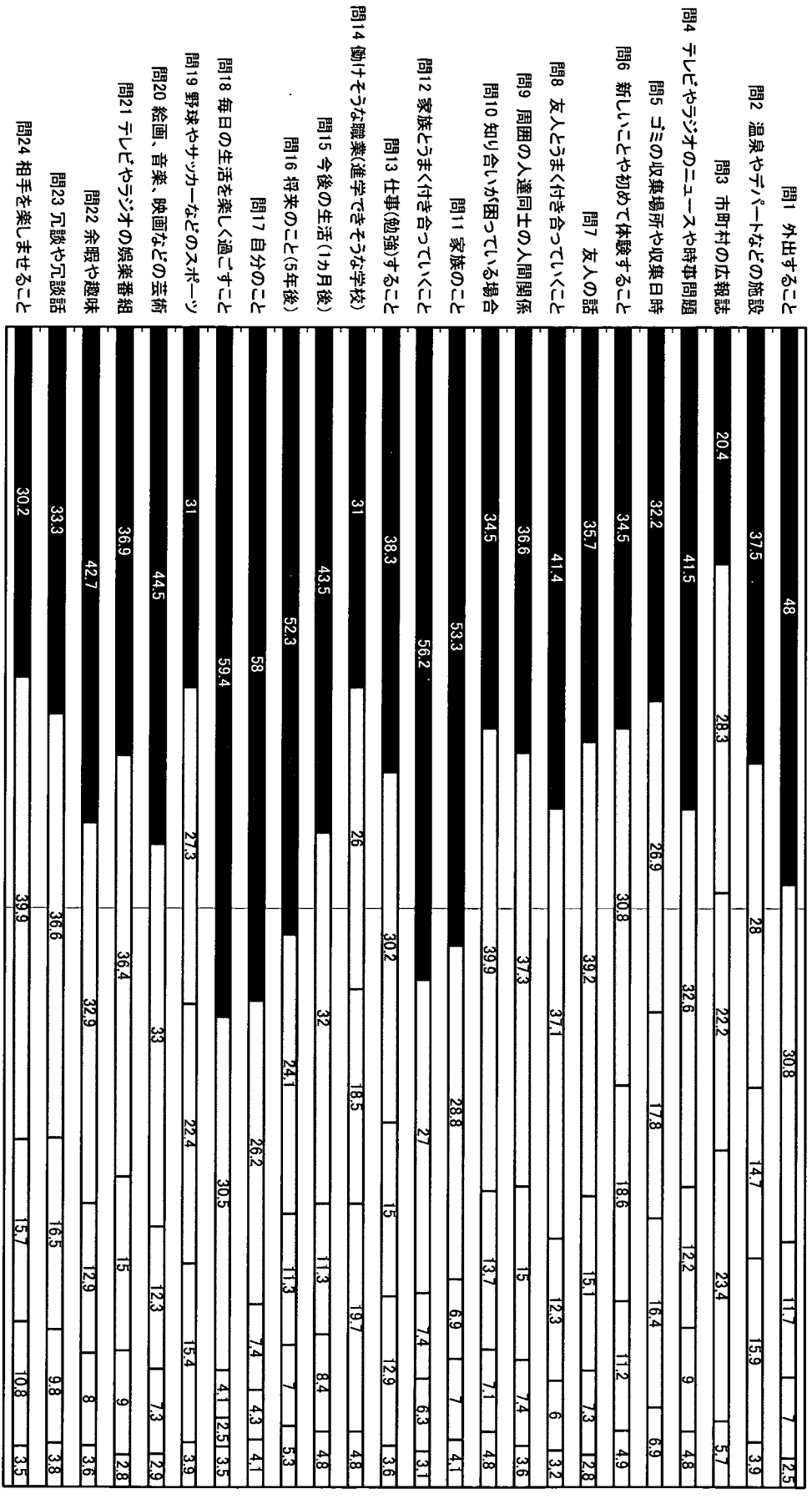


図8 生活機能(活動面) (N=715)

できる
 どちらかと言えばできる
 どちらかと言えばできない
 できない
 未回答

(2) 参加面 (図 10)

参加面については、「問 1 外出すること」では、715 名、中「関心がある」が 343 名 (48.0%) で最も多かった。「問 2 温泉やデパートなどの施設」では、「関心がある」が 268 名 (37.5%) で最も多かった。「問 3 市町村の広報誌」では、「どちらかと言えば関心がある」が 202 名 (28.3%) で最も多かった。「問 4 テレビやラジオのニュースや時事問題」では、「関心がある」が 297 名 (41.5%) で最も多かった。「問 5 ゴミの収集場所や収集日時」では、「関心がある」が 230 名 (32.2%) で最も多かった。「問 6 新しいことや初めて体験すること」では、「関心がある」が 247 名 (34.5%) で最も多かった。「問 7 友人の話」では、「どちらかと言えば関心がある」が 280 名 (39.2%) で最も多かった。「問 8 友人とうまく付き合っていくこと」では、「関心がある」が 296 名 (41.4%) で最も多かった。「問 9 周囲の人達同士の間人間関係」では、「どちらかと言えば関心がある」が 267 名 (37.3%) で最も多かった。「問 10 知り合いが困っている場合」では、「どちらかと言えば関心がある」が 285 名 (39.9%) で最も多かった。「問 11 家族のこと」では、「関心がある」が 381 名 (53.3%) で最も多かった。「問 12 家族とうまく付き合っていくこと」では、「関心がある」が 402 名 (56.2%) で最も多かった。「問 13 仕事(勉強)すること」では、「関心がある」が 274 名 (38.3%) で最も多かった。「問 14 働けそうな職業(進学できそうな学校)」では、「関心がある」が 222 名 (31.0%) で最も多かった。「問 15 今後の生活 (1 ヶ月後)」では、「関心がある」が 311 名 (43.5%) で最も多かった。「問 16 将来のこと (5 年後)」では、「関心がある」が 374 名 (52.3%) で最も多かった。「問 17 自分のこと」では、「関心がある」が 415 名 (58.0%) で最も多かった。「問 18 毎日の生活を楽しく過ごすこと」では、「関心がある」が 425 名 (59.4%) で最も多かった。「問 19 野球やサッカーなどのスポーツ」では、「関心がある」が 222 名 (31.0%) で最も多かった。「問 20 絵画、音楽、映画などの芸術」では、「関心がある」が 318 名 (44.5%) で最も多かった。「問 21 テレビやラジオの娯楽番組」では、「関心がある」が 264 名 (36.9%) で最も多かった。「問 22 余暇や趣味」では、「関心がある」が 305 名 (42.7%) で最も多かった。「問 23 冗談や冗談話」では、「関心がある」が 328 名 (33.3%) で最も多かった。「問 24 相手を楽しませること」では、「どちらかと言えば関心がある」が 285 名 (39.9%) で最も多かった。

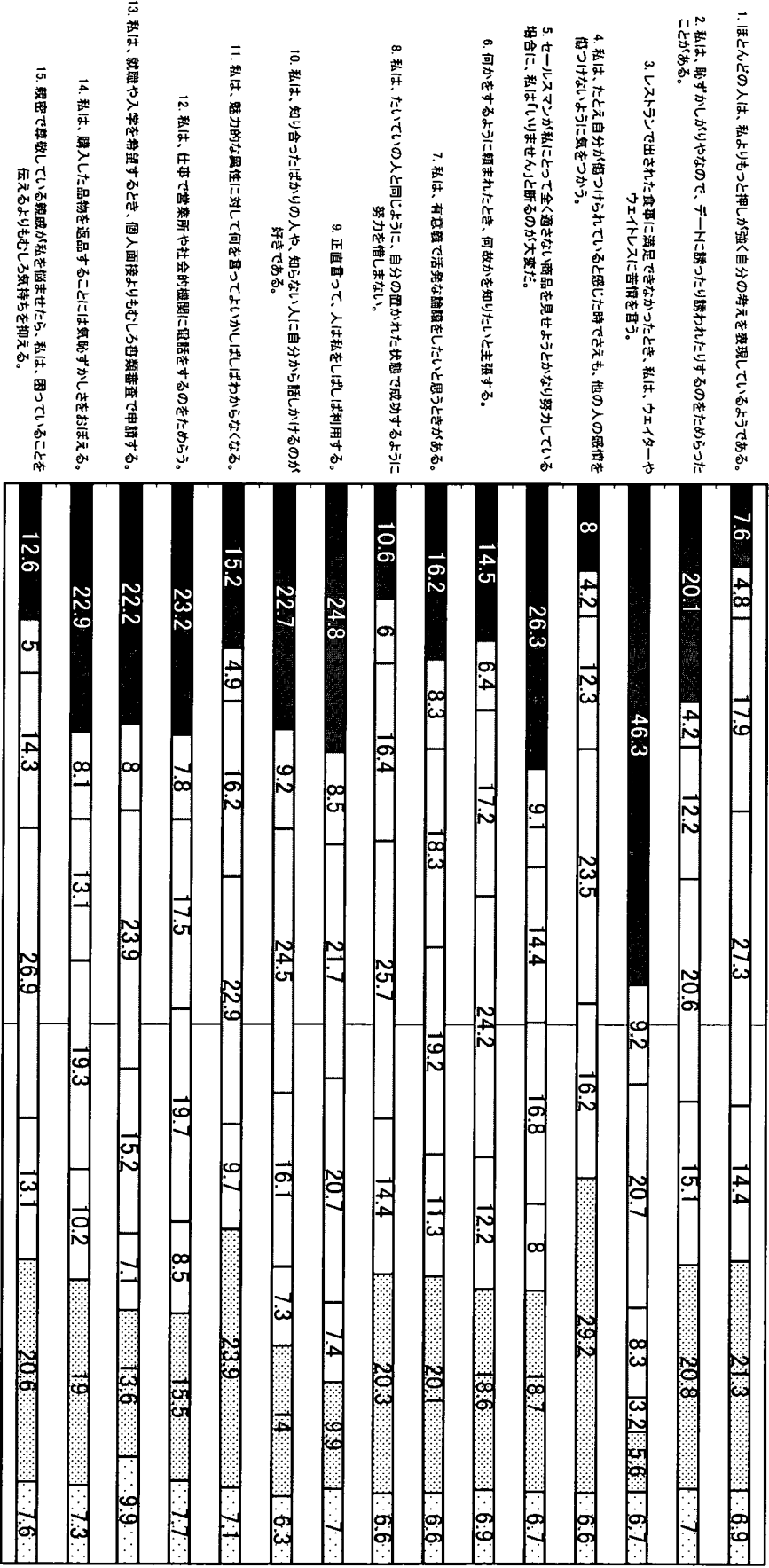


関心がある
 どちらかと言えば関心がある
 どちらかと言えば関心がない
 関心がない
 未回答

図9 生活機能(参加面) (N=715)

9) 日本語版 Rathus assertiveness schedule

日本版 RAS については、715 名中、「1. ほとんどの人は、私よりもっと押しが強く自分の考えを表現しているようである」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 195 名 (27.3%) で最も多かった。「2. 私は、恥ずかしがりやなので、デートに誘ったり誘われたりするのをためらったことがある」では、「まったく当てはまらない」が 149 名 (20.8%) で最も多かった。「3. レストランで出された食事に満足できなかったとき、私は、ウェイターやウェイトレスに苦情を言う」では、「きわめて当てはまる」が 331 名 (46.3%) で最も多かった。「4. 私は、たとえ自分が傷つけられていると感じた時でさえも、他の人の感情を傷つけないように気をつかう」では、「まったく当てはまらない」が 209 名 (29.2%) で最も多かった。「5. セールスマンが私にとって全く適さない商品を見せようとかなり努力している場合に、私は「いりません」と断るのが大変だ」では、「きわめて当てはまる」が 188 名 (26.3%) で最も多かった。「6. 何かをするように頼まれたとき、何故かを知りたいと主張する」では、「どちらかと言えば当てはまる」が 173 名 (24.2%) で最も多かった。「7. 私は、有意義で活発な論議をしたいと思うときがある」では、「まったく当てはまらない」が 144 名 (20.1%) で最も多かった。「8. 私は、たいていの人と同じように、自分の置かれた状態で成功するように努力を惜しまない」では、「どちらかと言えば当てはまる」が 184 名 (25.7%) で最も多かった。「9. 正直言って、人は私をしばしば利用する」では、「きわめて当てはまる」が 177 名 (24.8%) で最も多かった。「10. 私は、知り合ったばかりの人や、知らない人に自分から話しかけるのが好きである」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 175 名 (24.5%) で最も多かった。「11. 私は、魅力的な異性に対して何を言ってもよいかしばしばわからなくなる」では、「まったく当てはまらない」が 171 名 (23.9%) で最も多かった。「12. 私は、仕事で営業所や社会的機関に電話をするのをためらう」では、「きわめて当てはまる」が 166 名 (23.2%) で最も多かった。「13. 私は、就職や入学を希望するとき、個人面接よりもむしろ書類審査で申請する」では、「どちらかと言えば当てはまる」が 171 名 (23.9%) で最も多かった。「14. 私は、購入した品物を返品することには気恥ずかしさをおぼえる」では、「きわめて当てはまる」が 164 名 (22.9%) で最も多かった。「15. 親密で尊敬している親戚が私を悩ませたら、私は、困っていることを伝えるよりもむしろ気持ちを抑える」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 192 名 (26.9%) で最も多かった。



まさにわたしたしの特徴そのものであり、きわめて当てはまる。
 かなりわたしたしの特徴に近く、かなり当てはまる。

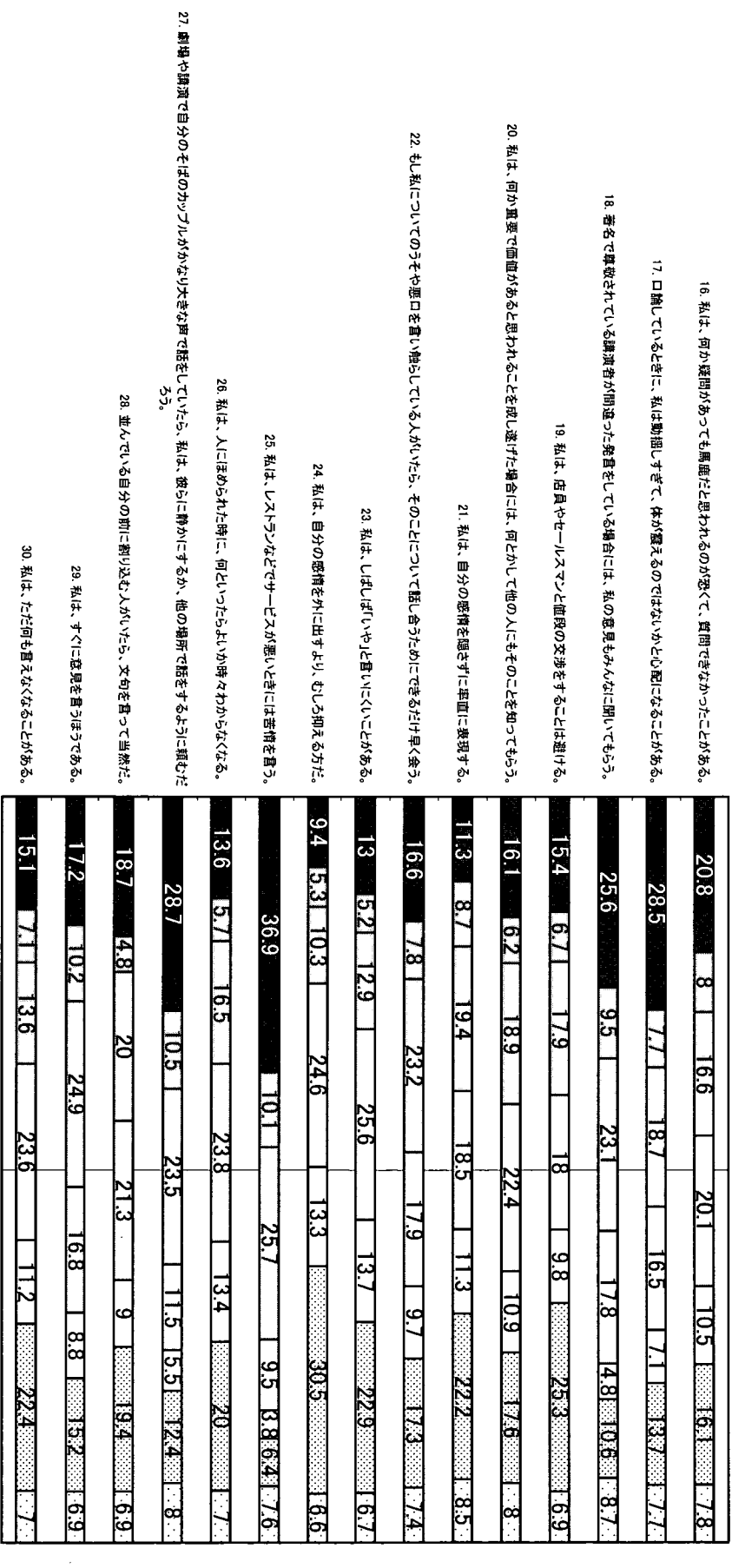
どちらかというわたしたしの特徴に近く、どちらかと言えば当てはまる。
 どちらかというわたしたしの特徴とは異なり、まったく当てはまらない。

かなりわたしたしの特徴とは異なり、当てはまらない時の方が多い。
 まったくわたしたしの特徴とは異なり、まったく当てはまらない。

未回答

図10 日本版RAS (N=715)

「16. 私は、何か疑問があっても馬鹿だと思われるのが恐くて、質問できなかったことがある」では、「きわめて当てはまる」が 149 名 (20.8%) で最も多かった。「17. 口論しているときに、私は動揺しすぎて、体が震えるのではないかと心配になることがある」では、「きわめて当てはまる」が 204 名 (28.5%) で最も多かった。「18. 著名で尊敬されている講演者が間違った発言をしている場合には、私の意見もみんなに聞いてもらう」では、「きわめて当てはまる」が 183 名 (25.6%) で最も多かった。「19. 私は、店員やセールスマンと値段の交渉をすることは避ける」では、「まったく当てはまらない」が 181 名 (25.3%) で最も多かった。「20. 私は、何か重要で価値があると思われることを成し遂げた場合には、何とかして他の人にもそのことを知ってもらう」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 160 名 (22.4%) で最も多かった。「21. 私は、自分の感情を隠さずに率直に表現する」では、「きわめて当てはまる」が 159 名 (22.2%) で最も多かった。「22. もし私についてのうそや悪口を言い触らしている人がいたら、そのことについて話し合うためにできるだけ早く会う」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 166 名 (23.2%) で最も多かった。「23. 私は、しばしば「いや」と言いにくいことがある」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 183 名 (25.6%) で最も多かった。「24. 私は、自分の感情を外に出すより、むしろ抑える方だ」では、「まったく当てはまらない」が 218 名 (30.5%) で最も多かった。「25. 私は、レストランなどでサービスが悪いときには苦情を言う」では、「きわめて当てはまる」が 264 名 (36.9%) で最も多かった。「26. 私は、人にほめられた時に、何といたらよいか時々わからなくなる」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 170 名 (23.8%) で最も多かった。「27. 劇場や講演で自分のそばのカップルがかなり大きな声で話をしていたら、私は、彼らに静かにするか、他の場所で話をするように頼むだろう」では、「きわめて当てはまる」が 205 名 (28.7%) で最も多かった。「28. 並んでいる自分の前に割り込む人がいたら、文句を言って当然だ」では、「どちらかと言えば当てはまらない」が 152 名 (21.3%) で最も多かった。「29. 私は、すぐに意見を言うほうである」では、「どちらかと言えば当てはまる」が 178 名 (24.9%) で最も多かった。「30. 私は、ただ何も言えなくなることがある」では、「どちらかと言えば当てはまる」が 169 名 (23.6%) で最も多かった。



まさにわたしの特徴そのものであり、きわめて当てはまる。
 どちらかという特徴に近く、どちらかと言えば当てはまる。
 どちらかという特徴とは異なり、当てはまらない時の方が多い。
 未回答

どちらかという特徴に近く、かなり当てはまる。
 どちらかという特徴と異なり、どちらかと言えば当てはまらない。
 まったくわたしの特徴とは異なり、まったく当てはまらない。

図 11 日本版RAS (N=715)

IV. 考察

1. 通所者の背景

通所者は、40 から 50 歳代が半数を占め、家族と同居している者が 6 割であった。家族と同居していながらも、掃除と洗濯は自分で行っている者が多く、セルフケア能力を維持・向上している。一方で、食事は掃除と洗濯よりも自分で行う者が少なかった。食事を作る過程は、掃除や洗濯よりも複雑であるため、自分で行う通所者が少ないと考える。デイケアでは、通所者の生活背景を考慮し、調理などの食事を作るプログラムを充実させていく必要があるだろう。

通所目的は、「規則正しい生活をするなどの生活をする力をつけるため (65.0%)」、「自分の生活を楽しめるため (44.8%)」、「家族や友人などの周囲の人達とうまく付き合うため (43.9%)」の順番で高い割合を占めた。今のデイケア以外のデイケア通所経験の有無については、経験がない者が約 8 割を占めた。通所者は、社会で生活する能力を向上することを目的とし、一箇所のデイケアに長く通所する。生活をサポートするデイケアへのニーズが高いと考える。

2. 通所者の生活機能の実態

活動面の各項目では、「できる」、または「どちらかと言えばできる」と回答した割合が多かった。特に、「問 14 精神科病院への定期的な受診」、「問 13 指示された通りの服用」、「問 15 調子が悪いことを伝えること」の順番で、通所者はできていた。デイケアでは、プログラムや個別の生活指導などで受診や服用の必要性を説明しており、通所者はそれら必要性を理解していることが明らかになった。

参加面の各項目では、「関心がある」、「どちらかと言えば関心がある」と回答した通所者が多かった。特に、「問 18 毎日の生活を楽しく過ごすこと」、「問 17 自分のこと」、「問 12 家族とうまく付き合いしていくこと」、「問 11 家族のこと」の順番で関心が高かった。通所者は楽しむことや遊ぶことが苦手であり、余裕がない行動が見られる。楽しめるようになると主体性を回復していくことであり、楽しめるようになることは回復の指標である（浅野, 2001）。これらの項目に関心を持っていることが、社会で生活している通所者の特徴だと考える。

3. 通所者のアサーティブネスの実態

アサーティブの各項目の中で、「きわめて当てはまる」と回答した割合が多かった項目は、「3. レストランで出された食事に満足できなかったとき、私は、ウェイターやウェイトレスに苦情を言う」、「25. 私は、レストランなどでサービスが悪いときには苦情を言う」であった。一方、「まったく当てはまらない」と回答した割合が多かった項目は、「24. 私は、自分の感情を外に出すより、むしろ抑える方だ」、「4. 私は、たとえ自分が傷つけられていると感じた時でさえも、他の人の感情を傷つけないように気をつかう」、「19. 私は、店員やセールスマンと値段の交渉をすることは避ける」で

あった。レストランのウェイターやウェイトレスには主張でき、それ以外の場面では感情を抑える場面がある。通所者は自己主張することが苦手でストレスを感じやすい面があり、通所者が自分の気持ちを伝えられるよう継続的なサポートが必要である。

参考文献

- 浅野弘毅(2001)：精神科デイケアの実践的研究(3版)．38-40，岩崎学術出版，東京．
- 齋藤深雪(2007a)：「精神障害者生活機能評価尺度(参加面)」の開発研究．日本保健福祉学会誌，14(1)，11-21．
- 齋藤深雪，鈴木英子，真木智，吾妻智美(2007b)：「精神障害者生活機能評価尺度(活動面)」の開発についての研究．第27回日本看護科学学会講演集，490．
- 鈴木英子，叶谷由佳，石田貞代，他(2004)：日本語版 Rathus assertiveness schedule の開発に関する研究．日本保健福祉学会誌，10(2)，19-29．
- 鈴木英子，齋藤深雪，丸山昭子，他：看護管理職の日本語版 Rathus assertiveness schedule の信頼性と妥当性の検証．日本保健福祉学会誌，14(1)，33-41．

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
鈴木英子, 齋藤深雪, 丸山昭子, 香月毅史	看護部長のアサーティ ブネスの実態とアサー ティブネスになれない 状況	日本精神保健 看護学会第17 回総会・学術 集会プログラ ム・抄録集		74-75	2007年

IV. 謝辭

謝 辞

本研究を実施するにあたり，調査にご協力いただきました精神科デイケア通所者の皆様，精神科デイケアの関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

また，調査の実施および報告書を作成するにあたり，ご助言をいただきました長野県看護大学 鈴木英子 教授に感謝申し上げます。

平成 20 年 3 月 31 日

主任研究者

齋藤深雪